

EAP カリキュラム 質保証指標モデル

1. 大学内での EAP 担当部門の位置付けと運営体制
2. EAP カリキュラム運営
3. EAP カリキュラム設計
4. 教授と学習
5. 成績評価、カリキュラム・授業評価および学習進捗

1. 大学内での EAP 担当部門の位置付けと運営体制

- 1.1 EAP 部門代表・運営担当者、大学の運営組織（学科、学部、関連部署など）との間に、効果的なコミュニケーションと支援の連携ラインがあること。
- 1.2 EAP 部門代表・運営担当者が、学生の所属学科・学部の学術的文化と学習活動（授業や課題の形式や内容）を理解するために、学科・学部との関係を築いていること。
- 1.3 EAP 部門代表・運営担当者が、図書館、コンピュータ・サービス、ライティングセンターなど、大学の関連部署と積極的な関係を築いていること。
- 1.4 教員採用の手順は、学内の慣行に沿って行われ、EAP の指導能力についてなんらかの基準に基づいて判断していること。
- 1.5 EAP 部門の教員には、学内の慣行に沿って、Professional Development（職能開発）の機会があること。
- 1.6 EAP 部門の教員が、授業の準備、採点、関連業務の遂行、および同僚教員とのコミュニケーションのために適切なオフィススペースまたはスタッフルームを使用すること。
- 1.7 事務的作業、および EAP 部門の運営、学生対応、教材、資料などに関して対応する、十分な数の職員が採用されていること。

2. EAP カリキュラム運営

- 2.1 EAP カリキュラムの全体的な運営管理の構造が、教職員スタッフに明示されていること。つまり、EAP 部門代表・運営担当者や教員スタッフの責任が明らかになっており、事務職員や他の支援スタッフの役割が、EAP 部門の全てのメンバーに明確に理解されていること。
- 2.2 EAP カリキュラムの全体的な構造が、学生に明示されていること。つまり、英語カリキュラムの目的や科目構成が明らかになっており、学習支援の施設や相談窓口などが明確に理解できようになっていること。
- 2.3 EAP 部門が、科目設計、時間割編成、基準に基づく学生のグループやクラス編成、授業担当

- 教員の割り当て、指導や成績評価の把握など、EAP 部門の運営の直接的な責任を担うこと。
- 2.4 授業担当教員が、EAP カリキュラムの情報、利用可能な教材やリソース、成績評価の基本方針に関するガイダンスを受けること。
 - 2.5 EAP 部門が、なんらかの標準化された方針で、EAP の指導効果をモニタリングしていること。
 - 2.6 EAP 部門の教員が、少なくとも 1 回は授業観察されていること。
 - 2.7 EAP 部門が、開講期間中や終了時に、科目やカリキュラム全体の評価を実施すること。
 - 2.8 科目やカリキュラム運営に関わる教職員が、適切に連携できるようになっていること。

3. EAP カリキュラム設計

- 3.1 EAP カリキュラムが、学生の学術的文脈での英語のニーズを考慮し、言語学習とアカデミックリテラシー発達の明確な原則に基づいて設計されていること。
- 3.2 EAP カリキュラムが、授業の目的と学習成果を、言語およびアカデミックリテラシーのスキル指導と結び付けて、スキル発達の明確な道筋を示す形で設計されていること。
- 3.3 学生の自律性ならびに学術的なテキストや実践に批評的に取り組む態度の育成が、シラバスの構成要素としてわかりやすく組み込まれていること。
- 3.4 EAP カリキュラムのシラバスに、明確な指導目標と学習成果、全体の授業計画、指定教材、および教員への指導上の留意事項が含まれていること。
- 3.5 EAP カリキュラム内で、図書館とオンライン学習リソースの使用法を紹介すること。
- 3.6 学生の自律学習者としての成長を促すための方法として、オフィスアワーなどの定期的な予定された個別の面談やチュートリアルを提供すること。
- 3.7 学習教材、教員用参考資料、専門誌、授業や学生に関する情報を閲覧できる設備や施設を提供すること。
- 3.8 EAP 部門の教員がカリキュラムの継続的な発展に貢献するよう奨励されること（FD や交流会への参加、教材共有など）。
- 3.9 EAP カリキュラムで、指導方法に積極的に工夫を行い、かつ、カリキュラム設計の定期的な改善・調整をして質の向上に取り組んでいること。

4. 教授と学習

- 4.1 授業が、適切な教授資格のある学位取得者により指導されること。そのうち、多数の教員が、修士号以上の資格があり、高等教育での EAP の教授経験を有していること。
- 4.2 すべての EAP 部門の教員が、英語を外国語とする学習者に対する適切な教授経験、さらに、カリキュラムに適した EAP の豊富な経験を有していること。

- 4.3 ELT/EAP の適切な資格や教授経験を有していない教員を雇用する際には、彼らの教員としての成長を支援し、観察するための適切なシステム（具体的には、メンタリング、授業観察、定例会議など）があること。
- 4.4 EAP 部門の教員が、授業のシラバスと、学習者の将来の学業との関係を理解していること。また、教員がシラバスの構成要素、つまり、授業の目的と学習成果、教材、評価などの関係性を理解し、これらの理解が授業に反映されること。
- 4.5 授業準備では、アカデミックリテラシーと実践への取り組みに十分な注意を払うこと。1 回分の授業計画には、次の(a)から(d)の項目が含まれていること。
- (a) シラバス全体と前後の授業に関連した、明確な授業の到達目標と意図された学習成果
 - (b) 授業の到達目標に適切な教材と補助教材の準備
 - (c) シラバス、時間割、将来の学術的なニーズに即した適切な進度の学習活動
 - (d) 授業の学習成果につなげるための主要なタスクにかかる適切な時間配分
- 4.6 授業は、EAP 環境に合わせて、コミュニケーションでジャンルに基づいたタスクベースのアプローチで指導すること。授業には、以下の(a)から(d)の項目が含まれていること。
- (a) 授業のオリエンテーションにおける、授業の到達目標、期待される学習成果、理論的根拠の明示（現在のニーズ、または、考えられうる将来のニーズに関連したもの）
 - (b) 授業の学習成果につなげるための主要なタスクにかかる適切な時間配分を重視した一連の学習活動
 - (c) 教室設備、補助教材などの適切な利用
 - (d) 授業のまとめとして、これまでの学習の振り返りと将来の応用に関する考察
- 4.7 授業を通じて、将来の学業において学習者が必要とする能力を理解している、または、理解しようとしている教員の専門的能力が示されること。専門的能力には、以下の(a)から(c)の項目が含まれていること。
- (a) 知識の構築と普及に利用できるような、様々な学術的ジャンルに対する気づき
 - (b) アカデミック、ノンアカデミックを問わず、様々なジャンルの対象者と目的の理解
 - (c) 特定の対象者にテキストの目的を伝えるための内容、構成、語彙、構文の選択方法に関する理解
- 4.8 学生が、使いやすく整理された適切で幅広いマルチメディア教材のある自律学習施設を利用できるようにすること。学生がこれらの教材や施設を使用する際は、自律学習を促すためのアドバイスを受けられるようにすること。

5. 成績評価、カリキュラム・授業評価および学習進捗

- 5.1 全体的な授業設計が、総括的な成績評価（summative assessment）と明示的に関連付けられていて、明確な学習の道筋を提供すること。
- 5.2 成績評価が、内容と手続きの両方において、所属学部の学術的期待に可能な限り密接に関連

していること。これは、所属学部の教員との対話、課題サンプルや試験の分析、または、講義サンプルの共有によって達成することができる。

- 5.3 EAP 部門の教員は、授業で使用される評価手順と基準について、事前に学生に知らせること。必要なレベルに達していない学生に対して、課題の再提出や再試験の機会があれば、その情報も連絡すること。
- 5.4 EAP 部門の教員は、学生に対して学習進捗や長所・短所について、適時に役立つフィードバックを行うこと。
- 5.5 EAP 部門の教員は、定期的に形成的評価（formal assessment）を行い、そのフィードバックを記録しておくこと。
- 5.6 異なる教員やタスク間の成績評価の手順について、標準化、公平性、および一貫性を保証するための対策を講じること。
- 5.7 学生に、自分の進捗状況を把握し、教員からのフィードバックを活用するよう注意を払わせること。
- 5.8 学生と所属学部にとって、EAP 部門における単位取得、それに関連した進級・卒業の判定手順や報告書がわかりやすく有用であること。
- 5.9 何らかの形の追跡によって、EAP カリキュラムを修了した学生のその後の学業成績を正式に把握するための効果的なシステムを設けること。このようなフォローアップは定期的に行われ、過去の学生や所属学部との話し合いも含まれること。